

## 第3章

# トルコにおける投票行動： 先行研究調査

### 間 寧

地域研究センター中東研究グループ  
アジア経済研究所

#### 要旨：

本稿は、トルコにおける投票行動についての先行研究を概観し、主要な知見と問題点を明らかにすることを目的としている。投票行動を一般的に規定する変数である（１）政党帰属意識、（２）（社会的）亀裂、（３）価値観、および（４）政権業績評価のうち、トルコでは（１）の政党帰属意識を除く残りの３つが説明力を持つ。中でもトルコの亀裂モデルは「中心・周辺」亀裂を基軸とし、さらにその下位に「世俗・宗教」という宗教的亀裂と「トルコ・クルド」という民族的亀裂が存在する。トルコにおいて価値観モデルは亀裂モデルを統合したように見えるが実はその逆である。トルコの価値観モデルでは「物質主義・脱物質主義」軸における、脱物質主義が前物質主義に置き換えられたため、本来の亀裂モデルに後戻りしている。

キーワード： 投票行動、トルコ、亀裂、価値観、業績評価

## はじめに

投票行動の実証研究によれば、投票行動を一般的に規定するのは<sup>1</sup>、(1) 政党帰属意識、(2) (社会的) 亀裂、(3) 価値観、および(4) 政権業績評価である。本稿ではトルコにおける投票行動についての先行研究を上記4つの観点から概観する。ただし、(2)については、トルコの既存研究は、亀裂よりは漠然とした社会経済的属性と投票行動の関係を扱ったものと、「中心・周辺」亀裂を論じたものに分かれる。そのため、以下では、政党帰属意識、社会経済的属性、「中心・周辺」亀裂、価値観、そして政権業績評価の順に論を進め、最後に主要な知見と問題点を明らかにする。

### 1 . 政党帰属意識

政党帰属意識 (party identification) は、投票行動とは必ずしも一致せず、むしろそれを規定する独立変数であるとの考えによる。1952年と1956年の米国大統領選挙において、かなりの有権者が、民主党支持を表明しながらも投票先を民主党から共和党へ変えていたことから、Campbell et al.[1960]は、候補者や争点が短期的な投票の揺れをもたらす一方、政党帰属意識が長期的な政党支持を規定すると主張した。政党帰属意識の概念はその後、西欧の投票行動の説明にも用いられた [Butler and Stokes, 1969]

しかし1960年代末になると、西欧において投票行動の不安定性が高まると、安定的な政党帰属意識という考え方が疑問視され、様々な研究の結果 [Schmitt, 1989; Miller et al., 1990; Brynin and Sanders, 1997; Dalton, 2000] 西欧で政党所属意識が安定しているとの議論はほとんど見られなくなった。

トルコにおいても、長期的な政党帰属意識を正面から取り上げた研究は非常に少ない。子供の党派性形成が父親や友人の党派性に強く影響されることを示した Kalaycioglu and Saribay ( n.d. ) が見あたるのみである。

この種の研究が少ない理由は、米国の特異性のほかに、トルコにおける政党の歴史が浅いことである。第 1 に、軍部が 1960 年と 1980 年にクーデタを起こした際、与党民主党を 1960 年に、すべての政党を 1981 年に、それぞれ解散させた。1961 年には公正党が民主党を継承して民主党の伝統は維持された。しかし 1981 年に解散された政党のうち、2 大政党の共和人民党と公正党は、その後同じ形では再建されなかった。両者とも、2 つずつの類似する政党により継承された<sup>2</sup>。第 2 に、1962 年に設立された憲法裁判所は政党をその憲法違反を理由に解散させてきたからである。1962 年から 2001 年までに 22 の政党が解散させられた<sup>3</sup>。第 3 に、政党制の制度化の遅れにより、主要政党からの分派政党が相次いで生まれた。新興民主主義における政治経済政策へ有権者の失望観が政党帰属意識を弱めることがトルコの場合にも当てはまるとの見方もある [ Özbudun, 2000]。

## 2 . 社会経済的屬性

亀裂的投票モデルは、有権者が帰属意識を持つ社会集団を代表する政党を支持する傾向を扱う。Lipset and Rokkan [ 1967 ] は西欧民主主義の歴史過程で 4 つの種類の亀裂が段階的に政党制度を規定・形成し、その構造は 1920 年以降「凍結」したと主張した。彼らの言う凍結仮説に対しては、1960 年代後半以降に亀裂構造が変化したとする論者により異が唱えられた [ Dalton, Flanagan, and Beck, 1984; Franklin et al., 1992; Ersson and Lane, 1999; Mair, 2001 ] トルコにおいて社会経済的構造と投票行動の関係を扱った研究は比較的多いものの、亀裂を明示的に分析したものは近年になってようやく現れたにすぎない。

亀裂的投票分析の萌芽とも言える研究は、有権者の社会経済的特質で投票

参加あるいは支持政党を説明するものである。Abadan [1966] は 1965 年総選挙の法学的、政治学的考察で、地域的オピニオンリーダーの政治経済的属性と投票行動を詳細に叙述した。Abadan and Yücekök [1967] は、特に所得階層と投票行動の関係を探った。そして、低所得者が中道右派の公正党と保守・親イスラムの国民党を、高所得者が世俗主義の共和人民党とトルコ労働党を支持する構図を示した。また 1961 年から 1965 年の総選挙の間におきた投票率低下の度合いが中所得層で最も大きかったことから、中所得層が投票に最も関心が低いと結論づけた。ただし、投票率が最も低いのは両総選挙とも、中所得層ではなく高所得層であったことからすると、政治への幻滅が最も大きかったのが中所得者であったと解釈すべきと思われる。Sencer [1974] のイスタンブルでの有権者調査結果 ( $N=419$ ) も、Abadan and Yücekök [1967] の政党支持の構図を裏付けている。Sencer はまた、支持政党を持たない投票者の特性をも明らかにしている。投票すべき政党が見つからない有権者は社会経済的地位が低かったのに対し、棄権を意図する有権者の同地位は高かった。

都市・農村の差異も投票参加の重要な決定要因である。Baykal [1970] は後進県において投票率が高いのは、これら県における農村人口比率の高さのためであると論じた。Nuhurat [1971] は村落における異常な投票行動に着目した。それは、無投票、低率投票 (1~10%) および同一投票 (同一政党・候補の得票率が 95%以上) である (3つ目の場合が最も多い)<sup>4</sup>。経済社会指標と投票行動を相関分析した結果、彼は同一投票の村が他の 2 種類の村よりも開発が遅れていることを見いだした。そして無投票、低率投票はインフラや公共サービスの遅れに対する村民の不満を、同一投票は封建的関係の下での地方名士による動員投票を示唆していると考察した。

社会経済的特質と投票参加は、政治発展論的観点からも論じられてきた。Özbudun [1976; 1980] は、社会が経済的に発展すると、個人あるいは共同体に依拠する政治参加が階級に依拠するものにとって代わられていくとの仮説を、1960 年代から 70 年代の県別、郡別データを用いて検証した。彼はまた、

トルコにおける投票行動の逆説、すなわち社会経済的發展度が高い地域よりも低い地域において投票率が高いこと、に対する答えを見つけた。それは、發展の遅れた地域では動員的投票が支配的であるのに対し、發展の進んだ地域では自発的投票がより広く見られるからであるというものである。ただしトルコ全国の経済社会的發展が進むにつれ、發展の遅れた地域でさえも動員的投票傾向は低下している。1970年代と80年代の南東アナトリアでは、郡レベルでの社会経済的發展度合いと投票率の間に正の関係があること、および一致投票の村は他の村と社会経済的特質がほとんど変わらなかった [Erdogan, 1991;1992]

なお1990年代の特徴として、抗議票が増えていることがある [Erder, 1996: 150; Erder, 1999: 106] Erderは抗議票を、選挙があれば棄権するか無効票を投じるとの回答数で測った。全回答に占める抗議票比率は1996年4月(N=2,396)の19.4%から1998年5月(N=1,800)の30.2%に上昇した。都市有権者は農村有権者よりも抗議票を投じる傾向にあるが、その理由は都市における教育水準の高さと個人主義と考えられる [Erder, 1999:112-113]

### 3. 「中心・周辺」亀裂

トルコ政治において「中心・周辺」亀裂(この中には「世俗・宗教」亀裂が含まれる)が支配的であるとの主張はMardin [1973]によりなされたが、それが実証されはじめたのは1980年代後半以降のことである。方法論的には2つある。第1に地域別投票行動の因子分析である。地域別の各政党得票率を因子分析することにより政党別得票パターン(どの政党が強いとどの政党が弱いという組み合わせ)を因子として取り出すことができる。これを亀裂と見なすものである。1965-77年の県別投票行動から抽出された主要3因子のおおよその比重(県別投票率の変動を説明できる程度)は、「中心・周辺」が3、「左派・右派」が2、「反システム」が1と、「中心・周辺」が最も高かった [Ergüder and Hofferbert, 1988] 1950-99年については、「中道左派・宗教

右派」<sup>5</sup>、「(官僚的)中心・(大衆的)周辺」,「トルコ民族主義・クルド民族主義」,「大政党・小政党」,「主流中道右派・少数極右派」という5つの因子が抽出され、これらが総体として「中心・周辺」亀裂を形成していると解釈された [Çarkoglu and Gamze, 2002]<sup>6</sup>。Çarkoglu and Ergen [2001] はまた、政党得票率の選挙ごとの変動が全国得票率よりも県別得票率の変化に影響される傾向がこれまでほとんど変わっていないことから、トルコの政党政治が国民統合を促進せず依然として地域的基盤に依拠し、「中心・周辺」亀裂を温存していると論じた。

第2に、世論調査データを用いた分析である。Kardan and Tüzün [1998] は1996年の全国調査(N=2,396)から、トルコ社会が都市の、高学歴、高所得層から成る反イスラム派と、郊外の、低学歴、低所得層から成る親イスラム派に分裂していると主張した。同時に、中道左派と中道右派の有権者の間に社会人口上の有意な差異は認められなかった。Boratav [1995] は階級が支持政党の重要な説明変数であるとして、大規模標本(N=8,024)を用いて階級下位分類別政党選好を克明に描き出した<sup>7</sup>。国家原則で世俗主義が強いトルコでは公的な場での宗教的表現が制約されているが故に、女性のヴェール着用の政治的意味合いが強い。Kalaycioglu [2005] はアンケート調査に基づく分析で、テュルバン(女性の髪のみを覆うヴェール)が単なる伝統・保守的習慣に依拠する衣装ではなく、イスラム法導入などを求める政治的イスラムへの支持と強く結びついていることを示した。他方、世俗主義の名の下に世俗主義的傾向を持つ他の要因が隠れている可能性もある。これまで宗教性対世俗性と認識されていた対立軸が、実はかなりの程度、敬虔スンナ派對アレヴィー派というイスラム教の宗派的対立を反映していることを明らかにしたのはÇarkoglu [2005] である<sup>8</sup>。

これ以外にも記述的手法で、マクロな選挙結果に依拠して社会基盤と政党との関係の長期的変化を考察したものがある。Tosun [1999] は、有権者ではなく政党が変わったと主張した。1980年以降の政党は本来の亀裂構造から乖離したというのである。彼は中道右派および中道左派諸政党の長期的低落の

原因を、これらの政党がイデオロギー及び組織の点で有権者を代弁できていないことに求めた。ただし、その根拠として、検証可能なデータが提示されているわけではない。ただし、過去との対比による考察は可能である。たとえば、親イスラム政党が単独過半数を獲得した 2002 年の総選挙は、有権者意識と与党議員出身背景の点で周辺による中心の掌握と解釈することも[ Turan 2004 ]、政党配列再編選挙 [ Tosun 2003 ] と形容することもできる。

## 4 . 政権業績評価

有権者の合理的選択を強く反映する投票行動は、回顧的投票 ( retrospective voting ) または経済的投票 ( economic voting ) と言われるが、ここでは前者を用いるとともに業績評価投票と意識した。業績評価投票仮説の前提は、個人が投票の基準を、現政権の公約よりも現政権下での過去の社会経済的成果に置くというものである。この仮説は社会的亀裂仮説と社会経済的視点で共通しているものの、独立変数の時間幅はより短く、1 年以下である<sup>9</sup>。業績評価投票分析を確立したのは Fiorina [ 1981 ] である。彼は 1956-76 年の米国連邦選挙のデータを用いて、現職の業績に対する有権者の評価が投票行動を直接のおよび ( 政党帰属意識、論点関心、および将来的期待を通じて ) 間接的に決定づけることを示した。現在の投票行動分析で最も比重が大きいのが業績評価投票分析である ( 集大成の一つとしては Dorussen [ 2002 ] )。

トルコにおける業績評価投票に関する既存研究は、その重要性にも拘わらずかなり少ない。集約レベルの研究結果では横断的分析と時系列分析がある。横断的分析では県別経済データが乏しかった時代に、Bulutay and Yildirim [ 1969 ] が農産物統計を所得統計の代理値として用いた。そして 1950-65 年における特定 20 県について、農家所得が急速に上昇した県では直後の選挙において与党の支持率が他県におけるより高い傾向にあることを示した ( なお、Bulutay and Yildirim [ 1970 ] も参照 )。Çarkoglu [ 1997 ] は 1950-95 年についての時系列分析で、失業とインフレが与党票に負の影響を与えることを示し

た<sup>10</sup>。

個人レベルの分析では Sencer [ 1974, 171-180 ] が投票において将来よりも過去を基準にすることが報告されている。彼によれば政党への投票の理由として、実績 ( 23.7% ) が綱領 ( 16.1% ) よりも重視されていた。また回答者の 82.8% もが選挙戦の前に ( 選挙戦中や後でなく ) 投票する政党を決めていた。より最近には Baslevent, Kirmanoglu, and Senatalar [ 2004; 2005 ] が 2002 年総選挙間近の個票データを分析したが、従属変数を与党支持ではなく、その後総選挙で勝利する野党への支持にしているという点で、本来の業績投票分析とは言えない。

## 5 . 価値観

価値観変化は、階級的投票などの社会的亀裂仮説が次第に説明力を失ってきた 1980 年代以降に主要なテーマとなった。最も影響力のある議論を展開したのは Inglehart [ 1977; 1981 ] である。彼はまず、脱工業化社会において物質主義 ( 経済的物理的安全を何よりも重視する ) から脱物質主義 ( 自己表現と生活の質を重視する ) への価値観変化を指摘した。彼はその理由を、若年世代が自らの成長期に比較的高い経済的充足を経験しているため、それ以外の価値をより重視することに求めた。さらに先進国・途上国の横断的調査の結果 [ Abramson and Inglehart, 1995; Inglehart, 1997 ] 脱物質主義の指標となるのは人間関係、仕事での発言、政治での発言、金より思想、言論の自由、の選好、これに対し、物質主義の指標となるのは、強い国防力、物価対策、犯罪対策、秩序維持、経済成長、経済安定、の選好であることが明らかにされている。

既存の亀裂モデルとの関連について Inglehart [ 1984 ] は、通常の ( 亀裂モデルの ) 対立軸、つまり階級と宗教心に規定される左右軸と、物質主義・脱物質主義に基づく新しい対立軸との競合が生まれていると主張した。新しい対立軸はまだ制度化されていないので、通常の対立軸に重ねられている。こ



のため、左右軸は二つの異なる意味を持っているという。なぜなら後者は、静態的な政党支持意識の影響をより受けにくいからである。彼はそして、1970年代後半の西欧において、左右自己認識を規定する要因として、階級よりも価値観の方がより重要であることを示した。

価値変化は近年、トルコ政治の調査テーマに加わった。世界価値観調査 (World Values Survey) の一環であるトルコ価値観調査 (Turkish Values Survey) は 1990 年、1997 年に実施されてデータベースが作られた。Esmer [1995] は 1990 年のデータおよびに別の同時期の 2 つのデータベースに依拠して政党支持者の左右自己配置から 5 つの主要政党の左右配列をそれぞれ割り出したが、政党配列結果は 3 つとも一致していた。Kalaycioglu [1994] は政党支持とイデオロギーの点で、トルコ有権者の 75% が穏健派 (中道右派か中道左派) であると報告している。この構図は 1970 年代以来安定的だったという。

ただしその後の 1997 年の調査結果によれば、トルコ有権者は左右イデオロギー尺度でより右に移動し、社会経済的属性よりも文化的価値が政党支持をより強く決定づけていた [Kalaycioglu 1999]。Esmer [1999] も、1990 年から 1997 年のあいだに彼による右派左派尺度の 7 指標すべてが右に移動した (うち 5 つが統計的に有意) としている<sup>11</sup>。Esmer [2002] の 1999 年全国世論調査 (N = 1,741) 結果も 1997 年と同様の傾向を裏付けるとともに、主要 6 政党すべてを有意に区別する唯一の変数が、人口学的、居住地、経済的地位、宗教的価値、政治的価値という変数群の中で、政治的価値に含まれる「左右イデオロギー」であることを示した<sup>12</sup>。なお、これ以外の変数では、宗教的価値が親イスラム政党と世俗政党への支持と有意な関係にあるのみだった。また、経済的地位が親イスラム政党支持と関係していないことは、同政党がもはや反システム政党と言えないことを示唆している [Esmer, 2002]。他のほとんどの研究は、一時点についての結果である。社会経済的属性と有権者意識を分析した Seker [1995] は 1994 年の調査 (N = 3,500) で、職種別の価値観を見いだした。農民は国家と政治を信頼するが、民主主義、女性、世俗主義を余り受け入れない一方、公務員は仕事や経済自由主義を肯定的に捉えて

いるなどである。

## おわりに

以上の概観からわかるのは、亀裂、政権業績評価、価値観はトルコにおける投票行動を説明するための鍵となりうるということである。トルコの亀裂モデルは「中心・周辺」亀裂を基軸とし、さらにその下に「世俗・宗教」という宗教的亀裂<sup>13</sup>と「トルコ・クルド」という民族的亀裂が存在する。トルコにおいて価値観モデルは亀裂モデルを統合したように見えるが実はその逆である。トルコの価値観モデルの尺度とされる左右自己配置では、たしかに左に行くほど世俗主義が、右に行くほど宗教性が強くなっている。しかし本来の価値観モデルの根幹である「物質主義・脱物質主義」軸の代わりに「経済的価値・文化的価値」軸が採用されている。その結果、トルコにおける価値モデルは一般的な亀裂モデルの文化的亀裂(「中心・周辺」と「国家・教会」)の部分を強調した内容になっている。すなわち、トルコの価値観モデルでは「物質主義・脱物質主義」軸における、脱物質主義が前物質主義に置き換えられたために本来の亀裂モデルに後戻りしているのである。トルコの既存研究におけるその他の問題としては、解明すべき疑問( research questions )が明示されていないことが挙げられる。多くの研究が、有権者の社会経済的属性と政党支持の相関関係を政党別に明らかにするというような統計的叙述にとどまっている。その中で、現象観察から異常性を発見し、その疑問を解明しようとしたのが動員の投票研究であり、トルコ社会の特質を描き出した。ただし、この現象も現在は消滅しつつある。

---

<sup>1</sup> 選挙争点という考え方もあるが、争点は選挙により異なることが多い。毎回の選挙結果を規定する争点を特定することは難しいので、選挙争点は、本稿の対象からはずした。

<sup>2</sup> 祖国党と正道党が中道右派を、社会民主人民党と民主左派党が中道左派を代

---

弁した。

- 3 31の解散請求のうち、22が認められ、9が退けられた。憲法裁判所から著  
者が2002年8月5日に入手した文書による。
- 4 1961-69年の国政選挙では、無投票の村と低投票率の村の数はそれぞれ128  
と215だったのに対し、一致投票の村の数は5,338だった。
- 5 親イスラムの度合いが既存政党の中で最も強い国民救済党 / 福祉党 / 美德  
党に代表される。
- 6 Ergüder and Hofferbert [1988]と同様の方法であるがトルコの複数政党制の  
時期はほぼすべてを対象としているため、より一般的な結論として解釈できる。  
なお、Hofferbert and Ergüder [1988]が因子を直交回転させたのに対し、  
Çarkoglu and Gamze [2002]は因子の斜交回転により、互いに相関する因子  
をも考慮に入れた。
- 7 中道右派政党 (ANAPとDYP) 支持傾向が強いのは、大・中規模ブルジョ  
アジー、年金生活者、小企業勤務の低学歴若年労働者、大・中農家 (特に  
DYP支持)、中道左派のうちSHPは高学歴の政府・民間ホワイトカラー、お  
よび貧農だった。もう一つの中道左派DSPはブルーカラー、都市の中学歴  
層および農村の中所得層の票をめぐり親イスラムのRPと競合していた。RP  
はまた、雇用者からも幅広い支持を得ていた。Boratavの区分では都市家計  
が9つ、農村家計が8つにも分けられていた。
- 8 これ以外に、より間接的な方法として、政党綱領や選挙争点の内容分析があ  
る。政党綱領が亀裂を反映することを前提に、Çarkoglu [1998]は1980年  
代以降に顕著化した投票流動性と政党制分極化を政党綱領で説明した。彼に  
よれば1980年代以降の政党はそれ以前の時期よりも争点特質を頻繁に変え  
る。また、この時期には市場経済や市民社会という新しい争点軸が生じてい  
る。新聞記事やテレビ・ラジオ放送内容の英訳データベースを材料に1995  
年トルコ総選挙での争点を分析したSecor [2001]は、トルコ単一国民国家主  
義対民族的多元主義<sup>8</sup>、世俗主義対イスラム主義、西洋対東洋という亀裂の  
存在を指摘した。
- 9 なお、業績評価投票は争点投票 (issue voting) の一種である。争点投票は時  
間的次元 (過去と将来) と内容的次元 (政策的位置、業績、属性) でそれぞ  
れ広がりを持つ [Dalton 1996, 222-225]
- 10 ただし、著者の再分析では、従属変数である与党支持率に単一根が認められ  
たので、上記の時系列分析結果は鵜呑みにできない (正しくは、従属変数に  
差分を用いるべき)。また時系列標本に (部分改選の) 上院選挙や (特定選  
挙区のみ) 補欠選挙も入っているが、これを他の総選挙結果と同じ標本に  
入れることには問題がある。
- 11 7つは、起業家主義対平等主義、私有対公有、個人責任対社会責任、競争対  
協調、利益調整、現状維持対変化、新思考対旧思考だった。
- 12 これに対し左派・右派志向を従属変数としたÖzcan [2000]は、それが宗派  
性により規定されることを、Boratav [1995]のデータを再利用して示した。
- 13 ここで「国家・教会」亀裂ではなくあえて「世俗・宗教」亀裂である理由は、  
西欧では教会が社会制度として権力を持つのに対し、世俗主義の強いトルコ

---

では国家から独立の宗教組織が法的に認められていないことである。

## 参考文献

- Abadan, Nermin. 1966. *Anayasa hukuku ve siyasi bilimler açısından 1965 seçimlerinin tahlili* [Analysis of the 1965 elections from the perspectives of constitutional law and political science]. Ankara: Siyasal Bilgiler Fakültesi Yayinlari.
- Abadan, Nermin, and Ahmet Yücekök. 1967. "1961-1965 seçimlerinde büyük şehirlerin oy verme davranislariyla ilgili bazı yorumlar" [Some interpretations of the voting behaviors of metropole residents in the 1961-1965 elections]. *Ankara Üniversitesi Siyasal Bilgiler Fakültesi Dergisi* 21, no. 4: 103-17.
- Abramson, Paul R., and Ronald Inglehart. 1995. *Value Change in Global Perspective*. Ann Arbor, Mich.: University of Michigan Press.
- Baslevant, Cem, Hasan Kirmanoglu, and Burhan Senatalar. 2004. "Voter Profiles and Fragmentation in the Turkish Party System," *Party Politics* 10, no. 3: 307-324.
- , 2005. "Empirical Investigation of Party Preferences and Economic Voting in Turkey." *European Journal of Political Research* 44, no.4: 547-562.
- Baykal, Deniz. 1970. *Siyasal katilma: Bir davranis incelenmesi* [Political participation: A behavioral analysis]. Ankara: Ankara Üniversitesi Siyasal Bilgiler Fakültesi.
- Bilici, Faruk. 1999, "Alevi-Bektasi ilahiyatinin günümüz Türkiye'sindeki islevi [The role of the Alevi-Bektash theology in today's Turkey]." In *Alevi kimligi* [Alevi identity], ed. Tord Olsson, Elizabeth Özdalga, and Catharina Raudvere. Trans. Bilge Kurt Torun and Hayati Torun. Istanbul: Türkiye Ekonomik ve Toplumsal Tarih Vakfi.
- Boratav, Korkut. 1995. *Istanbul ve Anadolu'dan sinif profilleri* [Class profiles from Istanbul and Anatolia]. Istanbul: Türkiye Ekonomik ve Toplumsal Tarih Vakfi.
- Brynin, Malcolm, and David Sanders. 1997. "Party Identification, Political Preferences and Material Conditions: Evidence from the British household panel Survey, 1991-2." *Party Politics* 3, no. 1: 53-77.
- Bulutay, Tuncer. 1970. "Türk toplumsal hayatinda iktisadi ve siyasal gelismeler" [Economic and political developments in Turkish social life]. *Ankara Üniversitesi Siyasal Bilgiler Fakültesi Dergisi* 25, no. 3: 79-119.

- Bulutay, Tuncer, and Nuri Yildirim. 1969. "Türk seçmenlerinin oy verme eğilimlerinde iktisadi sebeplerin önemi üzerinde bir deneme" [A paper on the importance of economic factors behind voting behaviors of the Turkish electorate]. *Ankara Üniversitesi Siyasal Bilgiler Fakültesi Dergisi* 22, no. 4: 7-39.
- Butler, David, and Donald Stokes. 1969. *Political Change in Britain: Forces Shaping Electoral Choice*. London: Macmillan.
- Campbell, Angus, et al. 1960. *The American Voter*. New York: Wiley.
- Çarkoglu, Ali. 1997. "Macro Economic Determinants of Electoral Support for Incumbents in Turkey, 1950-1995." *New Perspectives on Turkey*, no. 17: 75-96.
- , 1998. "The Turkish Party System in Transition: Party Performance and Agenda Change." *Political Studies* 46, no. 3: 544-71.
- , 2005. "Political Preferences of the Turkish Electorate: Reflections of an Alevi-Sunni Cleavage." *Turkish Studies* 6, no. 2: 273-292.
- Çarkoglu, Ali, and Ilgaz Ergen. 2001. "The Rise of Right-of-enter Parties and the Nationalization of Electoral Forces in Turkey." *New Perspectives on Turkey* 26: 95-137.
- Çarkoglu, Ali, and Avci, Gamze. 2002. "An Analysis of the Electorate from a Geographical Perspective." In *Politics, Parties, and Elections in Turkey*, ed. Sabri Sayari and Yilmaz Esmer. Boulder, Colo.: Lynne Rienner.
- Dalton, Russell J. 1996. *Citizen Politics: Public Opinion and Political Parties in Advanced Industrial Democracies*. 2nd ed. Chatham, N. J.: Chatham House.
- , 2000. "The Decline of Party Identifications." In *Parties without Partisans: Political Change in Advanced Industrial Democracies*, ed. Russell J. Dalton and Martin P. Wattenberg. Oxford: Oxford University Press.
- Dalton, Russell J.; Scott C. Flanagan; and Paul Allen Beck, eds. 1984. *Electoral Change in Advanced Industrial Democracies: Realignment or Dealignment?* Princeton, N. J.: Princeton University Press.
- Dorussen, Han, and Michael Taylor, eds. 2002. *Economic Voting*. London: Routledge.
- Erder, Necat. 1996. *Türkiye'de siyasi parti seçmenlerinin nitelikleri, kimlikleri ve eğilimleri* [The characteristics, identities, and tendencies of party supporters in Turkey]. Istanbul: Türkiye Sosyal Ekonomik Siyasal Arastirmalar Vakfi (TÜSES).
- , 1999. *Türkiye'de siyasi parti seçmenleri ve toplum düzeni* [Party voters and social order in Turkey]. Istanbul: Türkiye Sosyal Ekonomik Siyasal Arastirmalar Vakfi (TÜSES).

- , 2002. *Türkiye’de siyasi partilerin yandas/seçmen profili (1994-2002)* [The supporter/voter profile of political parties in Turkey (1994-2002)]. Istanbul: Türkiye Sosyal Ekonomik Siyasal Arastirmalar Vakfı (TÜSES).
- Erdogan, M. Murat. 1992. “Olagandisi oy verme davranisi’ve mobilize katilim: Güneydogu anadolu projesi bölgesinde toplu oy veren köyler üzerine bir arastirma” [“Unusual voting behavior” and mobilized participation: A study on collectively voting villages in the southeastern Anatolian project region]. *Ankara Üniversitesi Siyasal Bilgiler Fakültesi Dergisi* 47, nos. 1-2: 277-310.
- , 1991. “Güneydogu Anadolu projesi bölgesi’nde seçmen davranisi: 1970-1990” [Voter behavior in the southeastern Anatolian project region, 1970-1990]. Master’s thesis, Ankara Üniversitesi Sosyal Bilimler Enstitüsü Kamu Yönetimi ve Siyaset Anabilim Dalı.
- Ergüder, Üstün, and Richard I. Hofferbert. 1988. “The 1983 General Elections in Turkey: Continuity or Change in Voting Patterns.” In *State, Democracy and the Military: Turkey in the 1980s*, ed. Metin Heper and Ahmet Evin. Berlin: Walter de Gruyter.
- Esmer, Yilmaz. 1995. “Parties and the Electorate: A Comparative Analysis of Voter Profiles of Turkish Political Parties.” In *Turkey: Political, Social and Economic Challenges in the 1990s*, ed. Çigdem Baglim et al. Leiden: E. J. Brill.
- , 1999. *Devrim, evrim, statüko: Türkiye’de sosyal, siyasal, ekonomik degerler* [Revolutions, evolution, and the status quo: social, political, and economic values in Turkey]. Istanbul: Türkiye Ekonomik ve Sosyal Etüdler Vakfı (TESEV).
- , 2002. “At the Ballot Box: Determinants of voting Behavior.” In *Politics, Parties, and Elections in Turkey*, ed. Sabri Sayari and Yilmaz Esmer. Boulder, CO: Lynne Rienner.
- Franklin, Mark N., et al. 1992. *Electoral Change: Responses to Evolving Social and Attitudinal Structures in Western Countries*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Fiorina, Morris. P. 1981. *Retrospective Voting in American National Elections*. New Haven, Conn.: Yale University Press.
- Inglehart, Ronald. 1981. “Post-Materialism in an Environment of Insecurity.” *American Political Science Review* 75, no. 4: 880-900.
- , 1984. “The Changing Structure of Political Cleavages in Western Society.” In *Electoral Change in Advanced Industrial Democracies: Realignment or Dealignment?* ed. Russell J. Dalton, Scott C. Flanagan, and Paul Allen Beck. Princeton, N.J.: Princeton University Press.

- , 1997. *Modernization and Postmodernization: Cultural, Economic, and Political Change in 43 Societies*. Princeton, NJ: Princeton University Press.
- Kalaycioglu, Ersin. 1994. "Elections and Party Preferences in Turkey: Changes and Continuities in the 1990s." *Comparative Political Studies* 27: no. 3: 402-24.
- , 1999. "The Shaping of Party Preferences in Turkey: Coping with the Post-Cold War Era." *New Perspectives on Turkey*, no. 20: 47-76.
- , 2005. "The Mystery of the Türban: Participation or Revolt?" *Turkish Studies* 6, no.2: 233-251.
- Kalaycioglu, Ersin, and Ali Yasar Saribay. n.d. "İlkokul çocuklarının parti tutmasını belirleyen etkenler [Factors that determine the party support of primary school children]." In *Türkiye'de siyaset: Süreklilik ve değişim* [Politics in Turkey: Continuity and change], ed. Ersin Kalaycioglu and Ali Yasar Saribay. Istanbul: Der Yayinlari.
- Kardan, Ahmet, and Sezgin Tüzün. 1989. *Türkiye'de siyasi kutuplaşmalar ve seçmen davranışları* [Political polarization and voter behavior in Turkey]. Ankara: Veri Arastirma.
- Lipset, Seymour M., and Stein Rokkan, eds. 1967. *Party Systems and Voter Alignments: Cross-National Perspectives*. New York: Free Press.
- Mardin, Serif. 1973. "Center-Periphery Relations: A Key to Turkish Politics?" *Daedalus*, 102 (1): 169-190.
- Miller, William L.; Harold D. Clarke; Martin Harrop; Lawrence Leduc; Paul F. Whiteley. 1990. *How Voters Change: The 1987 British Election Campaign in Perspective*. Oxford: Oxford University Press.
- Nuhrat, Cenap. 1971. "Türkiye Köylerinde Olagandisi Oy Verme [Unusual Voting in Turkish Villages]." *Ankara Üniversitesi Siyasal Bilgiler Fakültesi Dergisi* 26, no. 1: 219-244.
- Özbudun, Ergun. 1976. *Social Change and Political Participation in Turkey*. Princeton, N.J.: Princeton University Press.
- , 1980. "Voting Behavior: Turkey." In *Electoral Politics in the Middle East: Issues, Voters and Elites*, ed. Jacob Landau, Ergun Özbudun, and Frank Tachau. Stanford, Calif.: Hoover Institute Press, 1980.
- , 1981. "The Turkish Party System: Institutionalization, Polarization and Fragmentation," *Middle Eastern Studies* 17, no. 2: 228-40.
- , 2000. *Contemporary Turkish Politics: Challenges to Democratic Consolidation*. Boulder, Colo.: Lynne Rienner.
- Özcan, Yusuf Ziya. 2000. "Determinants of Political Behavior in Istanbul, Turkey," *Party Politics* 6, no. 4: 505-18.
- Sencer, Muzaffer. 1974. *Türkiye'de sınıfsal yapı ve siyasal davranışlar* [The Class structure and political behavior in Turkey]. Istanbul: May Yayinlari.



- Schmitt, Hermann. 1989. "On Party Attachment in Western Europe and the Utility of Eurobarometer Data." *West European Politics* 12, no. 2: 122-39.
- Seker, Murat. 1995. *Türkiye'de seçmenin algılama süreci* [The voter perception process in Turkey]. Ankara: İmaj.
- Tosun, Tanju. 1999. *Türk parti sisteminde merkez sağ ve merkez solda parçalanma* [Center-right and center-left fragmentation in the Turkish party system]. İstanbul: Boyut Matbaacılık.
- , 2003. *Siyasette yeniden mevzilenmeler: Liberal sosyal sentez, muhafazakar demokrat sentez ekseninde 3 kasım 2002 seçimleri* [New positioning in politics: The November 3, 2002 general election from the perspectives of liberal social synthesis and conservative democratic synthesis]. İstanbul: Buke.
- Turan, Ali Esref. 2004. *Türkiye'de seçmen davranışı: Önceki kırılmalar ve 2002 seçimi* [Voter behavior in Turkey: Prior fractures and the 2002 election]. İstanbul: İstanbul Bilgi Üniversitesi.